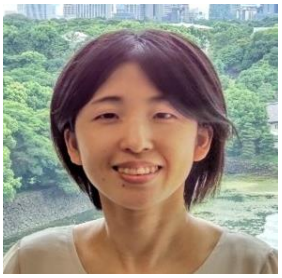
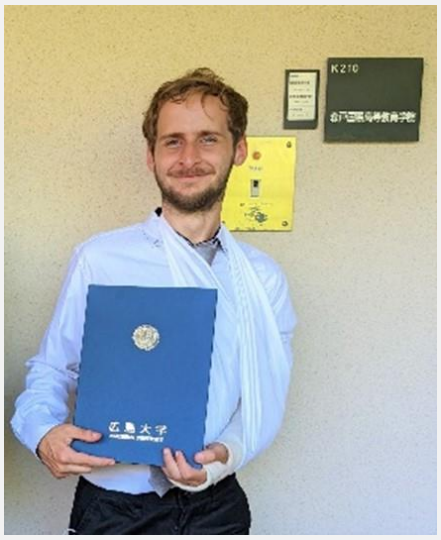
栗原（くりばら） 瑞穂（みずほ）さん
JICA 国内事業部大学連携課
シリア平和への架け橋・人材育成(JISR）プログラム



2022 年 9 月 4 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています

10 人の挑戦　広島から



修了証書を手に、笑顔を見せるシリアの研修員

広島大森戸国際高等教育学院（東広島市）で７月２９日、シリア人留学生１０人が８カ月間の日本語研修の成果を発表し、笑顔で修了証書を受け取った。シリア難民を対象として国際協力機構（ＪＩＣＡ）が実施する「シリア平和への架け橋・人材育成プログラム（通称ＪＩＳＲジスル）」の研修員だ。

期間中、熱心な先生や日本人学生チューターに教わりながら、朝から晩まで日本語漬けの日々を過ごした。意気込んで来日した１０人だったが、初めて学ぶ日本語、特に漢字に予想以上に苦戦し、疲れが見えた時期もあった。

そんな中で、休みの週末にも、気分転換しながら学びを深めていた。慣れない日本語で買い物をして店員に親切に対応してもらったり、尾道や呉の自然に癒やされたり。実りが多かったようだ。原爆資料館（広島市中区）も訪れた。いまだ紛争に終わりが見えない母国を思いながら、あらためて平和を考える機会になった。

研修最終日の成果発表では、広島で感じた日本の素晴らしさやアラブ文化との違い、シリアの歴史などを日本語で堂々と述べ、十人十色の個性が感じられた。

今秋には日本各地の大学院へそれぞれ進学する。研修員たちは「日本語研修はとても大変だったが、貴重な経験ができた。離れ離れになるのは名残惜しいが、次の舞台で頑張りたい」と決意を語っている。大学院で専門性を磨いた後は日本で就職、将来的にはシリア復興を担うことが期待されている。

「母国の困難な状況に負けず、自分の夢に向かって頑張ってほしい」という日本語の先生の熱い思いと期待を胸に、１０人の新しい挑戦が始まる。